

## 文化人切手シリーズ発行秘話

平岩 道夫 (切手評論家)

日本切手のシリーズもののひとつに文化人切手がある。野口英世をはじめ、福沢諭吉、夏目漱石、坪内逍遙、市川

団十郎、新島襄、狩野芳崖、内村鑑三、樋口一葉、森鷗外、正岡子規、菱田春草、西周、梅謙次郎、木村栄、新渡戸稲造、寺田寅彦、岡倉天心の18人の文化人を切手にしたもので、何かと話題をにぎわせているシリーズ。そこで、本号では発行当時の秘話を紹介してみよう。

郵政省で初代の切手係長として切手発行業務にたずさわってこられた中村宗文さんの「いまだから話そう」打ち明け話である。

平岩 いままでこそ文化人切手シリーズとっていますが、発行当時は「文化人切手」という名称でしたね。

中村 そうなんです。文化の発展に貢献した人の肖像切手シリーズを発行して、大いに日本の誇る人物を内外に紹介してはどうか、ということでした……。

平岩 候補者選びの基準は？

中村 郵政省が独自でその人物を選ぶということは危険だということになり、文部省とも相談、郵政審議会に15名の専門委員をおき、文化切手の候補者を選定させることになったのです。

平岩 推せんされた候補者は何名に？

中村 全部で65名あったと思います。

平岩 65名の中から切手には18名。その



間の事情をぜひおうかがいしたい。

中村 まず明治以前の人物については、図案資料として正確な写真を得ることが困難であるという理由で、はずすことに決まり、それから軍人と政治家もさける。現存する人もダメ。切手図案にふさわしい正確な肖像写真のある人に限ることなどです。

平岩 なるほど。切手の発行日とか資料収集でのご苦労は？

中村 発行日については、その人の誕生日を選ぶこと。発行方法は毎年6回程度として、3年で終わること。発行枚数は一般の記念切手が1回300万枚程度であるのに対し、その10倍の3,000万枚を発行すること。もっとも第4回の文化人切手からは発行枚数を1,000万枚に減らしましたが……。

平岩 そういえば、切手の図案をよくみますと、ほとんどの人が正面を向いているのに、正岡子規や岡倉天心は横顔で……。

中村 そうなんです。さすがは切手評論家でいらっしゃる。実は岡倉天心については正面を向いたものがなく、横顔が一般的だ、ということでそうになりました。正岡子規も同じ理由でした。

平岩 お忙しいところいろいろと貴重なお話をありがとうございました。